

「十三湖水戸口突堤」が土木学会選奨土木遺産に認定されました ～岩木川の治水と津軽平野の発展の礎～

- ◆ 地域を苦しめた度重なる水戸口閉塞による浸水被害を解消し、
岩木川の治水と津軽平野の発展の礎となった貴重な土木遺産 ◆

◇選奨土木遺産は、土木学会において土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、平成12年度に認定制度を設立しており、年間20件程度を選出しています。

◇十三湖水戸口は過去幾度も河口閉塞を繰り返し、その度に十三湖沿岸や岩木川下流部で浸水被害が発生していましたが、「十三湖水戸口突堤」の完成により河口閉塞が解消されただけでなく、十三湖の漁業や農業振興に大な役割を果たしています。

◇今般の認定を受け、青森河川国道事務所では治水効果のみならず、地域の発展にも寄与してきた「十三湖水戸口突堤」の歴史的役割を多くの方々に理解・関心を寄せていただくことにより、施設の保全や地域観光の起爆剤としても期待しています。

<認定概要>

- 名称：十三湖水戸口突堤（じゅうさんこみとぐちとってい）
- 受賞年月日：平成28年9月16日
- 完成年：昭和21年（大正15年着工）
- 推薦者：八戸工業大学大学院 土木建築工学科 教授 佐々木幹夫
- 認定理由：地域を苦しめた度重なる水戸口閉塞による浸水被害を解消し、岩木川の治水と津軽平野の発展の礎となった貴重な土木遺産

※詳細については土木学会のHPをご覧ください。
(<http://www.jsce.or.jp/contents/isan/>)

※青森河川国道事務所HPの十三湖水戸口突堤に関するページもご覧ください。
(http://www.thr.mlit.go.jp/aomori/river/topics/mitoguchi_dobokuisan.html)

発表記者会：青森県政記者会、建設関係専門誌、津軽新報社

お問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所
青森市中央三丁目20-38 tel 017-734-4521（代表）
副所長（河川） 平山 孝信（内線 204）
調査第一課長 田村 公仁（内線 351）
八戸工業大学大学院 工学研究科
八戸市大字妙字大開 88-1 tel 0178-25-3111（代表）
教授 阿波 稔

< 参考資料 >

○ 選奨土木遺産とは

土木学会選奨土木遺産の認定制度は、土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として平成12年度に創設されました。

土木学会としては、その結果として、

1. 社会へのアピール
(土木遺産の文化的価値の評価、社会への理解等)
2. 土木技術者へのアピール
(先輩技術者の仕事への敬意、将来の文化財創出への認識と責任の自覚等の喚起)
3. まちづくりへの活用
(土木遺産は、地域の自然や歴史・文化を中心とした地域資産の核となるものであるとの認識の喚起)
4. 失われるおそれのある土木遺産の救済
(貴重な土木遺産の保護)

などが促されることを期待しています。

以上、土木学会HPより引用

(http://committees.jsce.or.jp/doboku_isan/)



十三湖水戸口突堤

十三湖水戸口突堤

直轄事業以前の十三湖水戸口

十三湖河口（水戸口）閉塞による岩木川の浸水被害解消に向けて、人力による大規模な開削を幾度も試みましたが、全て失敗に終わっていました。



水戸口閉塞時の想定氾濫区域(大正12年1月)

現在の水戸口

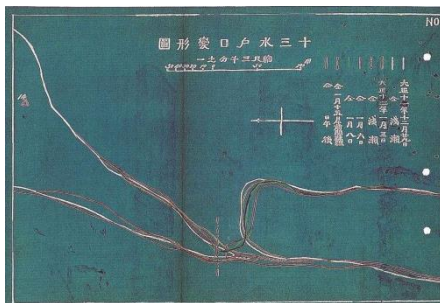
水戸口の変遷

水戸口の名称	年	位置
信義の水戸口	1649	明神沼の南端、浜明神の南
川下水戸口	1681-1683	明神沼の南端
網下上百間の水戸口	1789-1800	ほぼ現位置と同じ
狭門水戸口	1860	明神沼と前潟の間、明神沼の北側
神明宮下浜水戸口	1861-1862	神明宮大鳥居前の下の浜
本田水戸口	1863-1866	明神沼方面、上潟の南
本田水戸口北方水戸口	1866-1886	本田水戸口の少し北側の地点
長谷川水戸口	1869-	磯松の南端
旧町奉行所下水戸口	1881	旧十三町奉行があったとされる位置に開削
網下水戸口	1886	ほぼ現位置
神明宮下北方水戸口	1890-	神明宮下浜水戸口より少し北方の位置
五月女菴渡場南方水戸口	1897-	現位置の北側、五月女菴
御蔵屋敷下水戸口	1910-1917	旧御蔵屋敷下の砂丘を開削
羽黒崎対岸水戸口	1917-	現位置のやや南
岩木川改修水戸口	1925-	現位置(大正15年着工、昭和21年竣工)

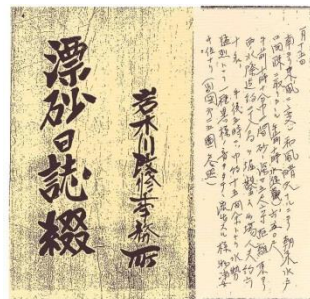
大正7年直轄改修着手

河口閉塞防止のための調査

岩木川改修事務所職員が突堤計画のために五年間（大正9年～13年）で約240回の地形変化の調査を実施し、その結果からほとんど変化のない地点をヒントに、突堤の位置・幅・長さを決定



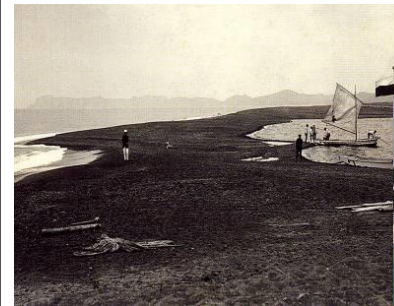
大正11・12年の水戸口変形図



開削作業や水勢状況を記録

突堤の建設

大正15年に突堤建設に着工し、昭和21年に完成。現在まで河口は閉塞することなく維持されています。この河口処理は、当時の施工技術として数少ない成功例となっています。



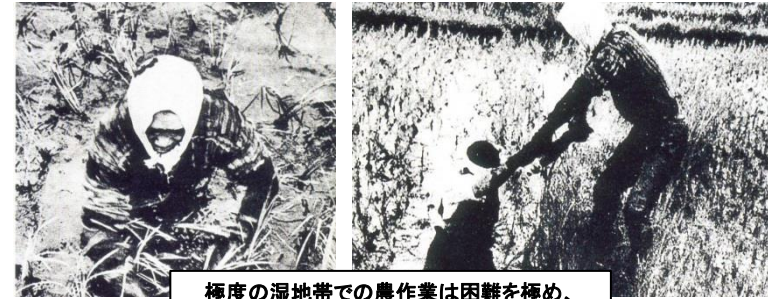
水戸口閉塞状況



現在の水戸口

十三湖水戸口突堤がもたらしたものの

十三湖水戸口突堤の完成による十三湖水位の安定化と、十三湖干拓事業と同時期に整備された十三湖右岸囲繞堤・左岸囲繞堤により、かつて腰切り田、乳切り田と呼ばれた極度の湿地帯が解消され、日本有数の穀倉地帯である津軽平野の新田開発、発展につながりました。



極度の湿地帯での農作業は困難を極め、腰切り田・乳切り田と呼ばれた



十三湖水戸口突堤は海からのエネルギーと川からのエネルギーとを程良くバランスさせて河口閉塞を防ぐとともに、十三湖の汽水環境を保ち、シジミ貝を始めとする豊かな水産資源を育んでいます。

